

スマホ生活

便利なものが、金さえ出せば、手に入れられる時代になりました。移動は飛行機、新幹線、車とスピードも以前と比較しますと、格段の違いです。自家用車がなければ公共交通の乗り物で、何とか確保できますし、食料品でも米がなくなればパンもありますし、選択できる範囲が広がりました。便利になると言うことは手段が多くなったと言ふことでもあります。衣食住とは言いますが人間の生存の基本は変わつてはいません。でも手段が多くなつてしましました。便利が目的化してしまい、何のために生きているのかがわかりづらくなつてしまつたされれば幸福を感じられたのが今は満たされてしまつたかり忘れてしまつたようですね。ポケベルが携帯電話に、そしてスマートフォンに変わる時代の早さに振り回されています。今は、誰もが便利なスマートフォンを手に持ち、いや一時も離すことの出来ないものとして扱っています。スマホは、生活に欠かせないモノとして定着しつつあります。コンピューター時代は手のひらに乗る電話機、情報端末機の一つの道具で事足りるようになつたのです。パソコン、カメラ、テレビ、音楽プレーヤー、ナビゲーション、ゲーム機、クレジットカード、税金の支払い、その他のことすべてが使いこなせればこれ一台で事足りるのです。生活機能のすべてが網羅されているのです。しかしこの便利な道具に、依存しなければ生きていけないような強迫観念のようなどころまで今は行き着いているような感覚です。当初の便利なモノが持たなければ不安が増す社会現象が起っています。犯罪も、個人情報も、世界中のことがこの一台に振り回されている社会が豊かな社会とは言えません。逆に不自由この上ない世の中のような気がいたします。小さな画面と、にらめっこをしていることが健全なのでしょうか。一つの道具に過ぎないモノが、それなしには生活ができないようにしてしまい、万能感を味わせるのは、異常な世界です。自らの好みに合わせスマホを使い、己の好み、趣味の世界のよう閉じこもり、他とは閉ざしてしまい、切り離し、そして切り離されます。人と人との共通点を失い、気にもならなくなる現象が見られるのです。情報も速いですねえ。情報も消費され、忘れ去られます。汚職、政治家の失言、森友問題、「そんなどもあつたなあ」です。今私たちほどんたな時代を生きているのか、見定める時です。以前作家寺山修司さんが「若者よ、書を捨てて街に出よう」と呼びかけましたが、今は「若者よケータイを捨てて自分と世界を見よう」と呼びかけます。あらゆる情報が瞬時に世界をかけめぐります。しかしその内で交わされるのは「どうやつたら上手く生きれるか」ばかりで「よく生きる」指針は見えないですね。むき出しの権力、欲望とマネーが飛び交います。仏教はこの権力、欲望と対峙するのです。限りなき欲望がどれだけ人間の【いのち】を損ない傷つけたかを思い起こすべきです。「欲が人間を進歩させた」と言われる方もいらっしゃいます。悲しいながらそれも事実でしよう。欲にはきりがありません。行き着くここまで行つても欲は消えないので、せめてその欲望にしつかりと目を向ける事が大切です。それは「欲のある人間」は他でもない「わたし」であり「あなた」であるのです。